

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 16No. 2; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009204

1991—16_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告



オーストリア農村における「家の墓」と女性のサービス——森 明子

アムール川下流域とサハリンにおける文化類型と文化領域

——レーヴィン、チェボクサロフの「経済・文化類型」と「歴史・民族誌的領域」
の再検討——佐々木史郎

A Study of the Mixe Language of the Eighteenth Century:

Confesonario en lengua Mixe by Quintana——Yoshiho Yasugi



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

16 卷 2 号

1991 年

目 次

オーストリア農村における「家の墓」と女性のサービス	森 明子.....223
アムール川下流域とサハリンにおける文化類型と文化領域 ——レーヴィン, チェボクサロフの「経済・文化類型」と「歴史・民族誌的領域」の再検討——	佐々木史郎.....261
A Study of the Mixe Language of the Eighteenth Century: <i>Confesonario en lengua Mixe</i> by Quintana	Yoshiho Yasugi.....311
彙 報	511
国立民族学博物館研究報告寄稿要項	517
国立民族学博物館研究報告執筆要領	518

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 16 No. 2

1991

- MORI, Akiko Woman's Services in the Continuity of the Household-grave: A Case Study from a Parish in South-east Carinthia 223
- SASAKI, Shiro A Study of Cultural Types and Cultural Areas in Lower Amur and Sakhalin Reexamination of the Concept of "Economic-Cultural Types" and "Historical-Ethnographic Regions" 261
- YASUGI, Yoshiho A Study of the Mixe Language of the Eighteenth Century: *Confesonario en lengua Mixe* by Quintana... 311

彙報

(平成3年4月～
平成3年6月)

人事異動
(行政職)

(昇任)

4月1日 徳山工業高等専門学校事務部長
金谷 英夫

(管理部庶務課長)

管理部研究協力課長

岩本 義男

(日本芸術文化振興会基金部振
興助成課専門員)

管理部会計課長 谷本 滋

(文部省学術国際局研究助成課
科学研究費総括係長)

情報管理施設情報サービス課長

五十嵐哲郎

(日本学会議学術部情報国際
課情報資料係長)

和歌山工業高等専門学校会計課
長 明渡 志郎

(管理部会計課課長補佐)

(配置換)

4月1日 管理部庶務課長 小島 栄基

(島根大学庶務課長)

富山医科薬科大学教務部研究協
力課長 奥出 栄治

(管理部研究協力課長)

国立国際美術館庶務課長

森口 節之

(管理部会計課長)

長崎大学附属図書館情報サービ
ス課長 吉田 哲廣

(情報管理施設情報サービス課
長)

(教育職)

(名誉教授称号授与)

4月1日 垂水 稔

(転任)

4月1日 東京大学助教授 永ノ尾信悟

(第三研究部助教授)

第一研究部助教授 清水 昭俊

(広島大学助教授)

(採用)

第三研究部助手 南 真木人

(昇任)

4月1日 第一研究部教授 松原 正毅

(第二研究部助教授)

第二研究部教授 栗田 靖之

(第二研究部助教授)

第四研究部教授 小山 修三

(第四研究部助教授)

第五研究部教授 森田 恒之

(第五研究部助教授)

第三研究部助教授 庄司 博史

(第三研究部助手)

大阪大学助教授 佐々木史郎

(第一研究部助手)

(配置換)

4月1日 第二研究部教授 石毛 直道

(第一研究部教授)

第一研究部教授 松澤 員子

(第二研究部教授)

第三研究部教授 大丸 弘

(第五研究部教授)

第五研究部助教授 長野 泰彦

(第一研究部助教授)

第四研究部助教授 須藤 健一

(第一研究部助教授)

第五研究部助教授 吉本 忍

(第二研究部助教授)

第五研究部助教授 大森 康宏

(第三研究部助教授)

第三研究部助教授 野村 雅一

(第五研究部助教授)

第四研究部助手 吉田 憲司

(第二研究部助手)

第二研究部助手 塚田 誠之
(第三研究部助手)
第二研究部助手 林 行夫
(第四研究部助手)

(客員研究部門)

4月1日 第三研究部教授

James Edward KULAS

(大阪外国語大学教授)

第二研究部助教授 永ノ尾信悟

(東京大学助教授)

第二研究部助教授

Timoty Fellows FITZGERALD

(愛知学院大学助教授)

(併任)

4月12日 第二研究部長 石毛 直道

(第二研究部教授)

評議員

氏名	任期
石川 榮吉	(2. 9.15~4. 9.14)
伊地智善継	(2. 9.15~4. 9.14)
上山 春平	(2. 9.15~4. 9.14)
梅原 猛	(2. 9.15~4. 9.14)
大西 昭男	(2. 9.15~4. 9.14)
北村 甫	(2. 9.15~4. 9.14)
木田 宏	(2. 9.15~4. 9.14)
熊谷 信昭	(2. 9.15~4. 9.14)
祖父江孝男	(2. 9.15~4. 9.14)
土田 直鎮	(2. 9.15~4. 9.14)
坪井 清足	(2. 9.15~4. 9.14)
直江 広治	(2. 9.15~4. 9.14)
中尾 佐助	(2. 9.15~4. 9.14)
中根 千枝	(2. 9.15~4. 9.14)
西島 安則	(2. 9.15~4. 9.14)
樋口 敬二	(2. 9.15~4. 9.14)
宮田 満雄	(2. 9.15~4. 9.14)
向坊 隆	(2. 9.15~4. 9.14)
村山 松雄	(2. 9.15~4. 9.14)

運営協議員

綾部 恒雄	(2. 9.15~4. 9.14)
飯島 茂	(2. 4. 1~4. 3.31)
石井 米雄	(2. 5.16~4. 5.15)
伊藤 幹治	(2. 9.15~4. 9.14)
大貫 良夫	(2. 9.15~4. 9.14)
口羽 益生	(2. 9.15~4. 9.14)
谷 泰	(2. 4. 1~4. 3.31)
長島 信弘	(2. 9.15~4. 9.14)
松園万亀雄	(2. 9.15~4. 9.14)
山口 昌男	(2. 9.15~4. 9.14)
米山 俊直	(2. 9.15~4. 9.14)
石毛 直道	(3. 4. 1~5. 3.31)
片倉 素子	(3. 4. 1~5. 3.31)
黒田 悦子	(3. 3.25~4. 9.14)
崎山 理	(2. 4. 1~4. 3.31)
佐々木高明	(2. 9.15~4. 9.14)
杉村 棟	(2. 9.15~4. 9.14)
杉本 尚次	(3. 4. 1~5. 3.31)
竹村 卓二	(3. 4. 1~5. 3.31)
友枝 啓泰	(2. 9.15~4. 9.14)
藤井 知昭	(2. 9.15~4. 9.14)

懇話会委員

粟津 潔	(2. 7. 1~4. 6.30)
勝井 三雄	(2. 7. 1~4. 6.30)
川添 登	(2. 7. 1~4. 6.30)
黒川 紀章	(2. 7. 1~4. 6.30)
小林 公平	(2. 7. 1~4. 6.30)
小林庄一郎	(2. 7. 1~4. 6.30)
小松 左京	(2. 7. 1~4. 6.30)
津田 和明	(2. 7. 1~4. 6.30)
中塚 昌胤	(2. 7. 1~4. 6.30)
伴 恭二	(2. 7. 1~4. 6.30)
堀切 民喜	(2. 7. 1~4. 6.30)
山下 俊彦	(2. 7. 1~4. 6.30)
山田 稔	(2. 7. 1~4. 6.30)
山本 信孝	(2. 7. 1~4. 6.30)
湯浅 叡子	(2. 7. 1~4. 6.30)

情報システム運営委員

井上 如	(3. 4. 1~5. 3.31)
------	-------------------

衆 報

及川 昭文 (3. 4. 1~5. 3.31)
大林 太良 (3. 4. 1~5. 3.31)
国井 利泰 (3. 4. 1~5. 3.31)
久保 正敏 (3. 4. 1~5. 3.31)
柴田 正美 (元.11.16~3.11.15)
田中 琢 (3. 4. 1~5. 3.31)
辻 三郎 (3. 4. 1~5. 3.31)
長尾 眞 (3. 4. 1~5. 3.31)
中野 照海 (2.10. 1~4. 9.30)
中山 和彦 (3. 4. 1~5. 3.31)
八村廣三郎 (2.10. 1~4. 9.30)
星 仰 (元.11.16~3.11.15)
松村多美子 (2. 7. 1~4. 6.30)
吉田 将 (3. 4. 1~5. 3.31)
佐々木高明 (3. 4. 1~5. 3.31)
石毛 直道 (3. 4. 1~5. 3.31)
藤井 知昭 (3. 4. 1~5. 3.31)
松澤 員子 (3. 4. 1~5. 3.31)
栗田 靖之 (3. 4. 1~5. 3.31)
小山 修三 (3. 4. 1~5. 3.31)
杉田 繁治 (3. 4. 1~5. 3.31)
長野 泰彦 (3. 4. 1~5. 3.31)
藤井 龍彦 (2. 7. 1~4. 6.30)
松原 正毅 (3. 4. 1~5. 3.31)
田中 武雄 (3. 4. 1~5. 3.31)

国内資料調査委員

石塚 尊俊 (3. 4. 1~5. 3.31)
泉 房子 (3. 4. 1~5. 3.31)
犬塚 幹士 (3. 4. 1~5. 3.31)
今村 充夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
大村 和男 (3. 4. 1~5. 3.31)
勝部 正郊 (3. 4. 1~5. 3.31)
萱野 茂 (3. 4. 1~5. 3.31)
神崎 宜武 (3. 4. 1~5. 3.31)
木崎 和廣 (3. 4. 1~5. 3.31)
岸田 定雄 (3. 4. 1~5. 3.31)
喜多 慶治 (3. 4. 1~5. 3.31)
木下 尚子 (3. 4. 1~5. 3.31)
倉田 亨 (3. 4. 1~5. 3.31)
小谷 方明 (3. 4. 1~5. 3.31)
小泊 立矢 (3. 4. 1~5. 3.31)

坂本 育男 (3. 4. 1~5. 3.31)
坂本 正夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
佐野 賢治 (3. 4. 1~5. 3.31)
澤 四郎 (3. 4. 1~5. 3.31)
篠原 徹 (3. 4. 1~5. 3.31)
下野 敏見 (3. 4. 1~5. 3.31)
鈴木 尚夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
高橋 克夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
立平 進 (3. 4. 1~5. 3.31)
田中忠三郎 (3. 4. 1~5. 3.31)
鶴藤 鹿忠 (3. 4. 1~5. 3.31)
都丸十九一 (3. 4. 1~5. 3.31)
名久井文明 (3. 4. 1~5. 3.31)
西村 綏子 (3. 4. 1~5. 3.31)
野口 光敏 (3. 4. 1~5. 3.31)
橋本 鉄男 (3. 4. 1~5. 3.31)
福田 栄治 (3. 4. 1~5. 3.31)
藤本 英夫 (3. 4. 1~5. 3.31)
松下 亘 (3. 4. 1~5. 3.31)
山口 賢俊 (3. 4. 1~5. 3.31)
山路 興造 (3. 4. 1~5. 3.31)
和田 正洲 (3. 4. 1~5. 3.31)

館内各種委員会

○標本資料委員会委員

杉本 尚次 佐々木高明 大塚 和義
松山 利夫 杉村 棟 吉田 集而
大丸 弘 南 真木人 藤井 龍彦
須藤 健一 森田 恒之 吉本 忍
谷本 滋 若月 修 熊谷 俊夫

○映像・音響資料委員会委員

杉本 尚次 佐々木高明 重松真由美
杉島 敬志 南 真木人 石森 秀三
吉田 憲司 大森 康宏 櫻井 哲男
谷本 滋 五十嵐哲郎 熊谷 俊夫

○ビデオテープ委員会委員

竹村 卓二 佐々木高明 小長谷有紀
林 行夫 端 信行 八杉 佳穂
大森 康宏 山本 泰則 小島 栄基
谷本 滋 五十嵐哲郎 熊谷 俊夫

○図書委員会委員

竹村 卓二	佐々木高明	中牧 弘允
清水 昭俊	宮本 勝	塚田 誠之
大丸 弘	野村 雅一	黒田 悦子
藤井 龍彦	崎山 理	福川 圭子
谷本 滋	五十嵐哲郎	熊谷 俊夫

○展示委員会委員

石毛 直道	佐々木高明	大塚 和義
松原 正毅	松山 利夫	田邊 繁治
栗田 靖之	杉村 棟	端 信行
八杉 佳穂	小山 修三	森田 恒之
長野 泰彦	田中 武雄	小島 栄基
岩本 義男	谷本 滋	若月 修

○国内資料調査委員会委員

杉本 尚次	佐々木高明	大塚 和義
松山 利夫	中牧 弘允	秋道 智彌
近藤 雅樹	大丸 弘	吉田 憲司
佐藤 浩司	櫻井 哲男	谷本 滋
若月 修	五十嵐哲郎	熊谷 俊夫

○広報・事業委員会委員

藤井 知昭	秋道 智彌	近藤 雅樹
塚田 誠之	林 行夫	大塚 和夫
庄司 博史	小山 修三	山本 紀夫
吉本 忍	泉 幽香	田中 武雄
小島 栄基	岩本 義男	谷本 滋
熊谷 俊夫		

○情報化委員会委員

佐々木高明	石毛 直道	松原 正毅
松澤 員子	栗田 靖之	吉田 集而
江口 一久	野村 雅一	小山 修三
吉田 憲司	杉田 繁治	山本 泰則
田中 武雄	谷本 滋	若月 修
五十嵐哲郎	熊谷 俊夫	

○出版委員会委員

友枝 啓泰	周 達生	松原 正毅
清水 昭俊	重松真由美	杉村 棟
田邊 繁治	宮本 勝	田村 克己
杉島 敬志	江口 一久	福井 勝義
大塚 和夫	森 明子	石森 秀三
山本 紀夫	須藤 健一	崎山 理
長野 泰彦	泉 幽香	岩本 義男

○HRAF 委員会委員

佐々木高明	石毛 直道	松澤 員子
栗田 靖之	森 明子	黒田 悦子
杉田 繁治	福川 圭子	五十嵐哲郎
谷本 滋		

○大学院委員会委員

藤井 知昭	竹村 卓二	石毛 直道
佐々木高明	片倉 素子	杉本 尚次
和田 正平	友枝 啓泰	黒田 悦子
杉田 繁治	田中 武雄	岩本 義男

○防災対策委員会委員

竹村 卓二	石毛 直道	杉本 尚次
友枝 啓泰	藤井 知昭	田中 武雄
小島 栄基	岩本 義男	谷本 滋
堀井 克彦	若月 修	五十嵐哲郎
熊谷 俊夫		

○施設整備委員会委員

友枝 啓泰	佐々木高明	小長谷有紀
田村 克己	和田 正平	佐藤 浩司
櫻井 哲男	田中 武雄	谷本 滋
堀井 克彦	若月 修	

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
中牧 弘允	助教授(第一研究部)	3. 4. 2	3. 4.11	スペイン
庄司 博史	助教授(第三研究部)	3. 4. 3	3. 4.13	フィンランド

彙 報

福井 勝義	助教授 (第三研究部)	3. 4. 3	3. 4.14	エチオピア
櫻井 哲男	助教授 (第五研究部)	3. 4.11	3. 4.14	韓国
松原 正毅	教授 (第一研究部)	3. 4.24	3. 4.30	中国
松澤 員子	教授 (第一研究部)	3. 4.24	3. 5.11	アメリカ合衆国
杉村 棟	教授 (第二研究部)	3. 5. 2	3. 5.18	アメリカ合衆国
清水 昭俊	助教授 (第一研究部)	3. 5. 7	3. 6.20	マーシャル諸島共和国
松原 正毅	教授 (第一研究部)	3. 5.22	3. 7.25	中国
杉村 棟	教授 (第二研究部)	3. 5.25	3. 6.20	ソ連
山本 泰則	助手 (第五研究部)	3. 6.14	3. 6.25	フランス
大塚 和義	助教授 (第一研究部)	3. 6.17	3. 6.23	ソ連
江口 一久	助教授 (第三研究部)	3. 6.17	3. 6.28	マレーシア, タイ

来館者抄

4月11日 ボダルト ベイリー (オーストラリア, オーストラリア国立大学)

4月18日 Donald CRAWFORD (アメリカ合衆国, ウィスコンシン大学文学部長)

4月22日 Savitri SUWANSATHIT (タイ, 国民文化会議事務局次長)
Termaang SABPASO (タイ, タイ国立文化センター展示課長)
Nuntiya SWANGVUDTHITHAM (タイ, 国民文化会議事務局展示課長)
Archaraporn PONGCHAVEE (タイ, 同展示課事務官)
Pipat CHAMGALE (タイ, 同展示課芸術係長)
Larry WEBER (アメリカ合衆国, 米国立科学財団東京事務所長)

4月24日 アーシャン ボルト (アメリカ合衆国, スミソニアン自然史博物館)

4月30日 伍 精 華 (中国, 国家民族事務委員会第一副主任)
劉 万 慶 (中国, 同委員会辦公庁副所長)
雅 嘎 熱 (中国, 中国民族映像出版社編輯)

5月7日 国際楽器博物館委員会一行

5月24日 エルースト U ジャフクローフ (ソビエト連邦, ソ連科学アカデミー極東支部考古学・極東民族学研究所考古学室長)

6月3日 インド・マハラジャー家一行8名
Shri Gaj Singh II, Shri Hemlata Rajye (マハラジャ夫妻)
Soeward Watie MOERANY (インドネシア, 政府教育文化省文化総局)

6月7日 Ibrahim Sayed Jamal Alhashemi (バハレーン, アラビアン・ガルフ大学学長)

6月8日 Thomas GOLK (ドイツ, ケルン日本文化会館)

6月14日 Ambroiss BEHALAL (カメルーン大使)
Susan HANSON (アメリカ合衆国, アメリカ地理学会学長, クラーク大学地理学部長)

6月20日 Ngauca UATIOA (キリバス, テウェケラ編集長)
Luke Clement Sela, OBE (バブアニューギニア, ポスト クーリエ編集長)
Sano MALIFA (西サモア, サモアオブザーバー編集長)
Shirley JOY (ヴェヌアツ, ヴェ

ヌアツ ウィークリーヘッドマ
デール副編集長)

Terry M. GAMABRUW (ミクロネ
シア, ミクロネシアインフォ
メーションオフィス 特別アシ
スタント)

Antari ELBON (マーシャル諸
島, ラジオ マーシャル ニ

ュース ディレクター・マーシ
ャル アイランド ガゼット編
集者)

6月24日 李 宝 三 (中国, 陝西省社会
科学院経済研究所長)

李 登 第 (中国, 陝西省社会
科学院歴史研究所長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたらえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 16卷2号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

大 塚 和 夫

崎 山 理

重 松 真 由 美

清 水 昭 俊

杉 島 敬 志

須 藤 健 一

田 邊 繁 治

田 村 克 己

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

松 原 正 毅

宮 本 勝

平成3年12月28日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 16卷2号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.16 no.2
1991

MORI, Akiko

Woman's Services in the Continuity of the Household-grave: A Case Study from a Parish in South-east Carinthia

SASAKI, Shiro

A Study of Cultural Types and Cultural Areas in Lower Amur and Sakhalin Reexamination of the Concept of "Economic-Cultural Types" and "Historical-Ethnographic Regions"

YASUGI, Yoshiho

A Study of the Mixe Language of the Eighteenth Century: *Confesonario en lengua Mixe* by Quintana



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X